

# 男磨きツアー in バンコク

## ～射撃ツアー編～



※これから話すことは、「射撃ツアー」において「非常に重要になる要素を孕んだ内容」になっているので、最後まで注意深くご熟読ください。

人間は、どんなことも「自分より知っている」「自分より体験している（経験がある）」という人物になぜか「憧れ」「尊敬」「信頼」などの念を抱いてしまうものです。

現に、

- ・成功者
- ・お金持ち
- ・芸能人

などが、一般人から魅力的に見られているがその証拠です。

「ただ〇〇（お金を持っている、何かを成している、芸能人）というだけで、その人が発する言葉にメモを取り出して感心して聞き入ってしまう…」

それが、『権威性』です。

権威性には2つあると私は現在考えています。

1. ステイタス
2. エクスペリエンス

です。

「1. ステイタス」は地位や財産などを指します。

まさに権力を持つ人たちです。

しかし、一般人の私たちに今すぐ「権力を持て！」なんて言っても、かなり無理があると思います。

「2. エクスペリエンス」は、「体験」という意味です。

言い方を変えれば「経験豊富な」という意味になります。

気づいていない人が多いのですが、人は誰でも『強み』を持っています。

その人の強みは、生まれてから磨かれ続けたもので、その分野においては誰でも第一人者です。

なので、誰でも『経験が豊富な何かを持っている』のです。

【自分を発揮する】とは、その『経験豊富な分野』を活用することになります。

こうやって分析してみると、

【エクスペリエンス】 → 【ステイタス】 となり、

『体験（経験）を積むこと自体がステイタスになる』

ということが理解できると思います。

とどのつまり、ステイタスが高いというのは『多くの結果を知っている』ということであり、それは『多くの体験から得た知恵』なのです。

そうは言っても「強みなんてないな…」 「イマイチピンとこないな…」 という人の方が多いのがこの日本です。

そんな場合でも『自分の強み』を発見することは可能ですが、残念ながら多少の時間と労力を必要とします。

そんな時に手っ取り早く「エクスペリエンス（経験値）」を得る方法があります。

それが、『未体験なことをやる』です。

-----  
ダイナミックにやる  
-----

しかも、ただ未体験なことをやるのでは、今までと何も変わりません。

「スケールアップしたダイナミックな未体験」

に【チャレンジする】ことが重要なのです。

簡単に言えば、

「日本で出来ること」 → 『海外でしか出来ないこと』

に【シフト】させるのです。

スティーブ・ジョブスがスタンフォードの卒業式で行なった伝説のスピーチでも語られていた、

「点と点を遠くに打つことで、その点がやがて線に繋がり、今のアップルがある」

ということと同じなのです。

もし、日本だけで出来ることばかりやっていたら…

「小さくまとまって人生終了」

になると思います。

海外に出て日本では出来ないことを体験することで『ダイナミックなチャレンジ』になるのです。

そこで初めてスケールアップした経験値を得られます。

「経験豊富な人物」に人々は弱いです。

なぜなら「結果を知っている」からです。

そんな人物に多くの人たちが相談に訪れます。

「困ったらあの人に聞こう」

「いつでも頼りになる」

そんな人物に人はこぞって寄ってきます。

-----  
みんな【経験豊富な人】に弱い  
-----

人は「印象イメージ」で相手を選別します。

特に女性は、

- ・重そう＝暗い
- ・しつこそう＝ストーカー
- ・面倒くさそう＝不快

なんていう印象を持つ男性を嫌います。

また、同じく「女慣れしていない」ことも、注意深く確認してきます。

なぜなら、「女慣れしていない＝重そうだし、思い込みが激しそう」と感じるからです。

逆に「女慣れしているな」という印象が持てる男性に女性は、「気軽に遊べそう（話せそう）」と感じてしまいます。

- ・軽やかだから楽しそう
- ・慣れてるからしつこくなさそう
- ・トラブルがあっても対処できそう

なんて考えるからです。

「女慣れしている」ということは「女性経験が豊富」ということです。

私も女性が好きだから、多くの女性とこれまで関わってきました。

その中で多くの経験をしてきたことが、ここで生きてくるのです。

しかし、ただ「チャライ」だけではダメです。

相手に「騙されるかも」なんて印象を与えてしまうからです。

だから、『信頼できる人物』であることが大前提になります。

-----  
【信頼＝誠実であること】  
-----

「信用とは過去の実績であり、信頼とは未来への希望である」

とよく言われるかどうかはわかりませんが…

【信頼】とは、「未来を期待させる希望が感じられる相手かどうか？」ということになります。

それには、『誠実さ』がキーポイントになってきます。

誠実とは、「感情」「思考」「行動」「発言」が全て一致していることを指します。

つまり、『芯を持った一貫性が感じられる人物』ということになります。

「かなりハードルが高いんじゃ…」

そう思うかも知れません。

でも、意外にシンプルです。

あなたの周りで『芯を持った一貫性が感じられる人物』を探すことから始めるといいです。

また、会社や学校で人づてに聞いて回るのもあなたの糧になります。

対象の人物がみつかったら、声をかけてもいいですし、それとなく観察するのもいいと思います。

また、その人物に近い人に話を聞くのもアリです。

なんてことは無いのですが、要は、【そういう人って何か夢中になるものがある】ものです。

何かに真剣に取り組んでいたり…

一生懸命に何かをやっていたり…

他のことを忘れて夢中になれるものを何か持っているものです。

そういう人は【独自の理論】を持っています。

その独自の理論が一貫性を発揮していることに気がつくべきです。

そして、その経験が【誠実さ】を生み出しているのです。

-----  
射撃は武道である  
-----

ここまで色々話してきました。

本来であればもっともっと、あなたに伝えたいことはあるのですが、本筋からなるべくぶれない範囲で伝えてきました。

これまでの話を簡単にまとめます。

- ・「ステイタス」と「エクスペリエンス」
- ・「ダイナミック・チャレンジ」をする
- ・「経験豊富な人物」になる
- ・「信頼」と「誠実さ」
- ・「一貫性」＝「夢中」

射撃は武道に似ています。

むしろ『射撃道』と言っても決して過言では無いです。

オリンピックの競技にもなってますし。

そして、

武道とは精神の充実であり…

己を律することで一貫性を保ち…

鍛錬によって答えを得るもの…

つまり、女性のみならず、人々に必要とされる人物になる行為そのものだとも言えると思っています。

現に、鍛錬とは…

『【千】をもって【鍛】とし、【万】をもって【練】とす』  
(千日の稽古を【鍛】とし、万日の稽古を【練】とする)

と言われますから。

-----  
さて、ここからが本題です…  
-----

当たり前のことですが…実弾射撃は決して日本ではできません。

一般の人から考えてみれば、非常にダイナミックなチャレンジかと思います。

- ・まず海外に行く必要がある
- ・その上で射撃場に行く必要がある
- ・実際に銃を撃つ必要がある

これらのプロセスを必要とするからです。

一般的な日本人であれば、「まず海外に行く」こと自体に高いハードルを感じてしまいます。

日本人は往々にして「保守的」な傾向にあるからです。

また、海外でも観光客が「実銃を射撃できる場所（国）」は非常に限られていますので、それを知ることができます。

更に言えば、安全管理がされている、信頼できる人たちが運営している射撃場は非常に限られますので、コネクションが必要になります。

今回利用する射撃場は、私がタイでの射撃トレーニングを行なっているところです。

最初に利用した時に「非常にバランスがいい」と感じたので、その日のうちにタイ人オーナーと仲良くなり、コネクションを作りました。

今ではLINEで連絡を取り合う大切なフレンドです。

海外の友達を作ることは非常にハードルが高いと感じますが、『自分の強み』のジャンルや特性などを利用すれば、『夢中（情熱）』の方が勝って行動してしまうものです。

そういう意味で、【自分を知ること】は非常に重要なことだと感じています。

-----  
安全に楽しむ  
-----

射撃は安全に気をつけてマナーを守って行えば、非常に安全なスポーツです。

しかし、そもそも銃は武器です。

包丁と同じで、美味しい料理を作る道具にもなれば、相手を殺傷する凶器にもなります。

事実、タイでは実弾射撃において年間20名ほど死亡事故が出ています。

- ・ふざけていて銃を振り回して発射されてしまった
- ・つまづいた拍子に引き金を引いてしまった
- ・お酒を飲んで射撃をしていた

などなど、被弾するのは銃を撃つ本人ではなく『周囲にいる人』になるため、

決して、

- ・甘くみない
- ・ふざけない
- ・安全管理を徹底する

ようにしてください。



---

## 必須な3つの安全管理

---



1. すべての銃は常に「弾薬が装填されている」とみなして扱うこと
2. 「銃口」は常に「安全な方向（標的）」に向けること
3. 標的を狙う瞬間まで「引き金」から指を離しておくこと

- 
1. すべての銃は常に「弾薬が装填されている」とみなして扱うこと
- 

銃は道具です。

道具は使用する人の意思でコントロールされているべきです。

なので、「銃の暴発」は、使用する人の意思に反して起こります。

暴発を防ぎ、安全に銃を取り扱うには、

『常に銃には弾薬が装填されている』

『いつでも発射可能である』

と言う前提で銃を扱うことです。

これが前提になっていれば、銃を雑に扱ったり、乱暴に振り回したりできなくなります。

今後は、銃を見たら『この銃には弾薬が装填されていて、発射が可能である』と考えるようにしてください。

---

## 2. 「銃口」は常に「安全な方向（標的）」に向けること

---

射撃場では、「銃口（マズル）」は常にターゲット（標的）に向けてください。

決してターゲット以外に向けることをしないでください。

他の観光客が注意されているのを見ていると、

- ・構える時に「銃口を上に向ける」
- ・銃を手にとった時に「銃口を下に向ける」
- ・銃をよく見ようとして銃口を横に向ける

などがあります。

射撃場では基本的にスタッフが横について監視してくれます。

実際にあなたが銃を撃つ時も、スタッフは銃をターゲットに向けたまま渡してきます。

弾薬がなくなって再装填してくれたり、危険な行為があった場合は注意してくれるので、安心して射撃を楽しむことができますが、実際に銃を取り扱う私たちが最も注意すべきです。

実際射撃場で起こる銃による死亡事故では、

「友人とふざけていて銃を横に向けてしまった」

なんてものもあります。

なので、どんな場合でも必ず『銃口は常にターゲットを向ける』ことを意識しておいてください。

---

## 3. 標的を狙う瞬間まで「引き金」から指を離しておくこと

---

銃には「安全装置」が複数、備え付けられていることが多いです。

とはいえ、最終安全装置は『使う人の意思』になります。

それでも「安全に意識がない人たち」が暴発事故を起こしてしまうのです。

そこで、私たちが行っていることが『フィンガーオフ』です。

ソフトウェア上の最終安全装置は『自分の意思』ですが、ハードウェアでの最も確実な最終安全装置は、引き金を引くあなたの『人差し指』です。

その人差し指を安全装置にします。

だから、銃の暴発事故を防ぐ、最高の防御策は「引き金に指を掛けないこと」です。

暴発事故の例にもあったように、

「友人とふざけていて銃を横に向けてしまった」

としても、そもそも【引き金に指が掛かって“いない”】のであれば銃は暴発することはなかったのです。

他にも、

「床に落ちている薬莢につまづいて、その拍子に引き金を引いてしまった」

なども、引き金に指をかけていたから起こった事故でもあります。

なので、必ず『撃つ瞬間まで引き金に指をかけてはならない』のです。

銃を握って撃つまでは、【人差し指をまっすぐにして引き金から離しておく】ことです。

今後は、

1. 銃を構える
2. 標的を狙う  
『→ここで初めて指をかける』
3. 撃つ

ことを意識して行ってください。



-----

## 照準のやり方

---

銃の照準は、

「フロントサイト（前にある照準器）」

「リアサイト（後ろにある照準機）」

の二つを使って行います。

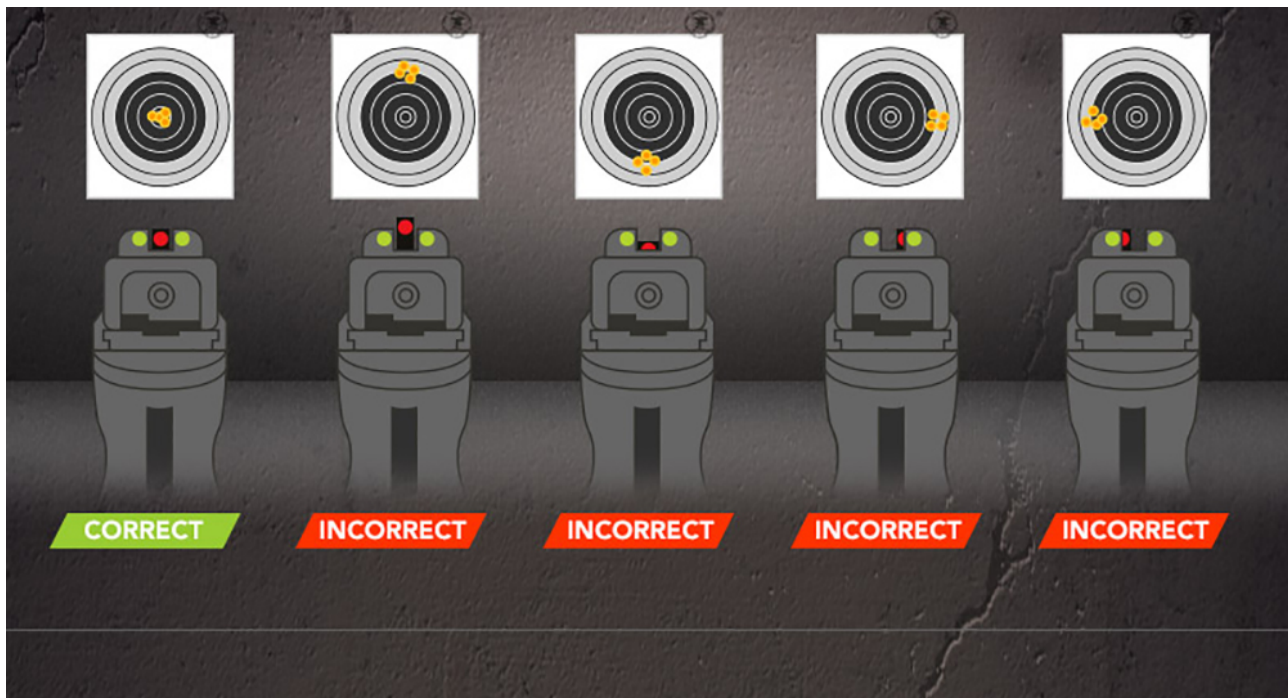


要は『リアサイトの溝にフロントサイトを合わせる』と言うことです。

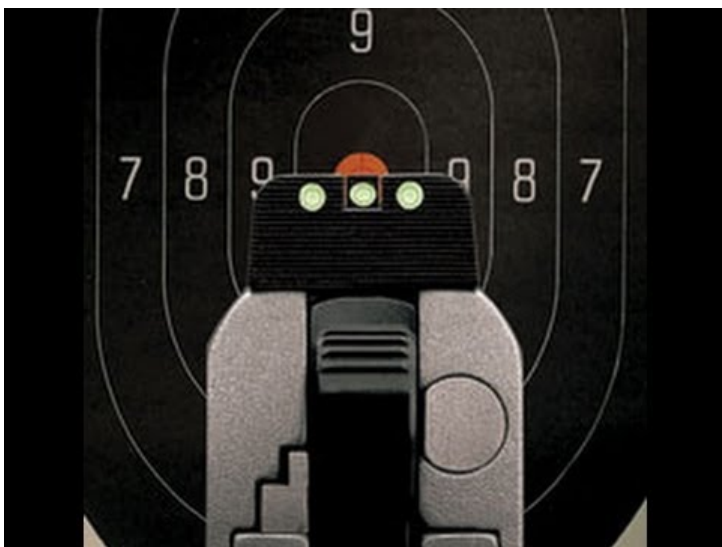
下の画像のような感じです。



その時、「フロントサイト」が上下左右にズレていたりすると、狙いが外れます。



最後に、【照準はターゲットの『センター』に合わせる】ことです。



これらは「銃を撃つ時の基本」ですが、射撃の世界は奥が深く、『スムーズに確実に当てる為』のいろんなテクニックがあります。

ですが、まずはこれらの基本をマスターしておいてください。

---

## 実際に射撃ツアーに行く時

---

基本的に射撃に必要なツールの全ては射撃場に揃っていますが、あなたが射撃をする上で必要なものをここに挙げておきます。

持ち物：

- ・一応、パスポート持参

服装：

- ・靴（サンダルではない）
- ・長ズボン、または、ヒザが隠れる半ズボン
- ・TシャツでもOK

費用：

- ・3000バーツ～5000バーツ
- ・追加で好きな銃を使用できます

その他の注意点：

- ・安全管理を徹底すること
- ・スタッフの指示に従うこと
- ・射撃ツアーの『8時間前の飲酒』は避けること
- ・体調不良の場合は参加しないこと

---

最後に…

---

私は女性に対して「こないだ本物の銃を撃ってきてさ～」なんて話します。

日本人女性、外国人女性問わずです。

以外にも多くの女性が興味をもって話を聞いています。

実際、女性シューターも多い（しかも美人！）ですし、日本ではサバゲー女子も多くなってきました。

自分の趣味についてや、体験についての話をする時のポイントは2つあります。

1. 決して独りよがりの自慢に終始しないこと
2. 必ず相手に「自分事」と感じさせること

です。

---

## 1. 決して独りよがりの自慢に終始しないこと

---

「海外に行ってきた」

「本物の銃を撃ってきた」

これだけだと、リア充がSNSでアピールに必死なのと何ら変わらないです。

人の脳、は他人の自慢話には一切興味が湧かない作りになっています。

逆に「他人の不幸は蜜の味」なのです。

- ・ 上司、同僚の自慢話
- ・ 部下のノロケ話
- ・ SNSのリア充アピール

正直どうでもいいのです。

それよりも、

- ・ 上司や同僚の「やっちゃったエピソード」
- ・ 部下がフラれた話
- ・ 「FXで2400万円溶かした」「新車のフェラーリが納車日に廃車」

なんてのは、非常に興味深いものです。

---

## 2. 必ず相手に「自分事」と感じさせること

---

自分の趣味や体験の話は、どこまで行っても自分の話です。

相手から見たら「他人事」なので、正直つまんないです。

例えば、先述した

「海外に行ってきた」

「本物の銃を撃ってきた」

なんてものは、その鏡みたいなもんです。

でも、ここに【ある】ことを付け加えれば、途端に相手が自分事として関心を持ち始めます。

それは…

1. ゴシップ
2. 妄想体験

です。

「1. ゴシップ」とは、『相手の身近に起こりえること』を情報として付け加えるのです。

例えば、

「この前、本物の銃を撃ってきたんだけど、射撃場の人から怖い話を聞いてさ…」

「毎年事故で20人くらい亡くなってるんだって」

みたいな感じです。

これって、「海外に行った」なんて一言も言ってませんが、相手は「海外に行ってきたの？」なんて聞いてきます。

そりゃそうです。

日本じゃ実銃は撃てませんから。

また、人は誰でもいつかは死にます。

「死」はすべての人に共通するワードです。

ゴシップ記事が好んで読まれるのは、こう言った「すべての人に共通する（起こり得るかも知れない）ことがら」だからなのです。

また、

「本物の銃を撃ちに行ったら、絶世の美女シューターがいた！」

こんな話も面白いです。

もちろん、これらすべて実話です（笑）



-----  
なぜかエロい…  
-----

「2. 妄想体験」とは、『相手に想像させること』です。

相手に想像させるには、

- ・具体的な感覚を伝えてあげたり…
- ・その時の気分や感情を詳細に話してあげたり…
- ・「擬音」を交えて、ニオイや味、風景が感じられるように表現してあげる

ことがポイントになります。

「銃の発射音ってドキューンじゃないんだね。パンパンって言うんだね」

「衝撃（反動）がバコンバコン激しい」

「的のイイところに当たった時の快感がハンパない」

なんて感じですが…

これには別の効果があります。

「パンパン」

「バコンバコン」

「激しい」

「イイところに当たった」

「快感」

なんかエロくないですか？

説明は省きますが、これが『META（メタ）ワード』と言うもので、実際は違う話題の話をしているのに、エロい想像をしてしまうやつです。

-----  
『自分を知る』ことの答えは体験にあり…  
-----

人はオギャーと産まれてから様々な体験をして成長していきます。

産まれてこのかた「音楽」なんて聞いたことがない人が、作曲できないように…

『人は知らないものは認識できない』

ものです。

だからこそ、世界を知り、世の中を知り、人間を知ること、『認識領域を広げる』ことが重要なのです。

「チャンス」は、

『チャンスを見ようとしたものだけが見える』ように、『チャンスとはこういうものだ』と知っていなければ、いつまで経ってもチャンスは認識できないのです。

実際に体験をする、もっと言えば、『今まで選んでこなかったであろう選択』であったり、『今までにないスケール』であったりすればするほど、あなたの【認識領域】がグングン広がっていくのです。

世の中には様々なことを知っている人がいます。

が、ただ「知っているだけ」では「頭でっかちな雑学王」止まりです。

女性に聞くとわかるのですが、「知識だけ頭に詰まっている男性はダサイ」と言います。

なぜなら、実際にそれをやったことも、その場に行ったこともないので、話すこと全てが「机上の空論ばかり」だからです。

男性「○○ってすごいんだよね」

女性「やったことあるの？」

男性「いや、無いけど…」

女性「…（ダサッ！）」

こんな感じです。

人は自分よりも多くを体験し、結果を知っている人物に対して、

- ・話が面白い
- ・今までにあったことがない人
- ・頼りになる

と無意識に感じ取ります。

そして、『自分を知る人』にこそ【憧れや尊敬の念を抱く】のです。

人間誰しも、他人ばかり気にしていて自分を知りません。

どことなく、好きも嫌いも他人を基準にする傾向にあります。

「誰かがスゴイって言ってたから」

「やっぱり時計は〇〇だよな」

全く『自分軸』がないです。

- ・誰かが言ってた
- ・みんなが言ってる

他人の意見ばかり気にして、自分の心を大切にしていないです。

なので、『自分軸』を持っている人物に、どこか「導かれない」「付き従いたい」と思っています。

-----  
漫才で笑いながら発見した概念  
-----

私はお笑いが大好きです。

特に千原兄弟が好きなのですが、先日、彼らの漫才を見ていて「ハッ！」としたことがありました。

彼の後輩に、「てつみち」さんという方がいるそうなのですが、彼の生い立ちが凄いです。

彼は小学生の頃、壮絶なイジメに遭っていたそうです。

でも、学校の先生や親にはイジメられていることを隠していたらしく、彼なりに恥ずかしい思いがあったようです。

ある日、家族で夕食をとっている時にテレビに「たけし軍団」が出ていました。

彼は、そのたけし軍団を見て、

「あれ？俺がイジメられているのと同じことされてる」

「なぜ、同じことをやっているのに、彼らは人に笑いを提供できるんだろう？」

「一体何が違うのだろうか？」

と感じたそうです。

確かに当時のたけし軍団って、テレビじゃなかったら「イジメと同じ」ような過激なお笑いでしたからね。

そこで、彼がやったことが、今後の彼の人生を大きく変えます。

彼がイジメを受けた時、ふざけることでクラスメイトたちの笑いを取ることにしたのです。

「イジメと思うから暗くなる」

「お笑いのネタ振りだと思えばチャンスになる」

こう言った彼の『意味を変える』ことが、功を奏し、イジメっ子たちも一緒に笑い始めるようになりました。

いつかクラスの人気者になった彼は「お笑い芸人になりたい」と思うようになり、今はその夢が叶いました。

まだ売れてはいませんが（笑）

-----  
『意味を変える』ことで成長が止まらなくなる  
-----

「昔いじめられてて…」

「今イジメに遭ってて…」

こう聞くと、聞いているこっちまでネガティブになりそうです。

でも、「イジメ」という行為そのものは同じでも、

「お笑いのネタ振りと一緒にだな」

と言われると、確かに似ています。

- ・バケツの水をかけられる
- ・頭をしばかれる
- ・お尻をしばかれる

これらは出川哲朗さんがリアクション芸を披露するチャンスですね。

「イジメ」 → 「ネタ振り」

のように、『意味を変える』ことで、ネガティブな「イジメ」を楽しい「お笑い」に変換してしまったのです。

こんなにアグレッシブでドラマティックな変換技は見たことも聞いたこともありませんでした。

そこで、私も自分を見つめ直してみたら、「あっ、あちこちでやってるな」と気づきました。

<意味を変える>

地元で → 海外で

同級生 → 志の高い仲間

ワンパターン → イレギュラー

好き → 他の選択肢も試す

嫌い → とりあえず受け入れてみる

失う → 何かを得る

得る → 何かを失う

失敗 → 成功の二歩手前

悩み → 成長できるテーマ

問題 → パターン変えるタイミング

迷い → 自分を知るシグナル

不安 → やることを変えるタイミング

他人のミス → かわいい

これらは「ダイナミック」かつ「成長」するためのヒントです。

私たちも普段意識していることです。

参考にしてみてください。

それでは【かなり】長くなりましたが、楽しい射撃を楽しんでください。

佐藤ともやす